
超最新型介護ロボット。

augusu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超最新型介護ロボット。

【Nコード】

N1735BA

【作者名】

augusu

【あらすじ】

シヨートシヨート。

M氏は星新一から。

M氏は幼い頃から機械が好きで、大人になると努力と才能でその道の仕事を得た。

しかし時間とは残酷なものだ。

幼い頃支えてくれていた両親が年老いて、身寄りのない彼らはM氏の介護を求めた。

M氏には仕事がある。

けれど他人には両親を任せたくないと思う子供心もある。

「うむ。困った。……いや、これがきっかけなのかもしれない」

M氏は今受け持っている仕事を全部後回しにして、ある機械の開発に勤しんだ。

僅か2ヶ月でそれは出来上がった。

超最新型介護ロボットだ。

そのロボットは介護についてすべて任せられる上に、最も大切な人間の代わりになることも出来る。

顔の変わりにモニターがあり、そこにM氏の顔が映る。

声もM氏の声をモデルにした機械音声で、どんな応答も出来る。

両親に触れる箇所。手や身長や胴体などもすべてM氏がモデルのマネキンのようなもの。

介護ロボットは見る限りM氏にそっくりだった。

脳が閉じ始めている両親にはまったく疑われないほどそっくりだった。

「M氏。M氏だね？ ああ、ありがとう。ありがとう」

「これで介護も仕事もばっちりだ」

両親がロボットに感謝を告げながら介護を受けている様子を見て、M氏は改めて仕事に勤しみ始めた。

介護ロボット以外の仕事も目処が立ち、両親の対応いかんでは超最

新型介護ロボットも販売にこぎつけようと考えた。

何しろ自分が介護をしなくても、自分が介護をしている事になる優れものだ。

これさえあれば家族の絆を失うことなく、介護の囚われる事もない。M氏は我ながら素晴らしいものを開発したと思えた。

その最後の結果を見るためにM氏は家へ向かう。

「やあ母さん。調子はどうだい？」

「……誰だいあんた？」

「何を言っているんだ。M氏だよ。忘れてしまったのかい？」

「M氏？ M氏ならここにいるよ」

「それはロボットだよ。僕が本当のM氏だ」

「こつちが本当のM氏だ。だって本物ならこうして、私達に付きっ切りでいてくれるはずだ。そうだろう？」

「はい。お母様」

介護ロボットはM氏そっくりの声で返事をした。

M氏は介護ロボットの販売を見送った。

壊したい衝動にすら駆られたが、壊しては両親を本当に自分が介護しなければならなくなる。

そう考えると、それは出来ない。

M氏はそれでも、介護ロボットを壊せない。

笑い声が届く実家の外で、M氏は家族との絆を失った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1735ba/>

超最新型介護ロボット。

2012年1月4日13時53分発行